

活動継続のために

会員募集 & 寄付のお願い

NVNAD の活動は、会費・寄付金によって支えられています。
皆様のご支援を、よろしくお願い申し上げます。

会員種別

●正会員

本会の目的に賛同して入会する個人または法人もしくは団体
で、総会での議決権を有する。

個人会員	年間	3,500 円/□
団体会員	年間	10,000 円/□
法人会員	年間	20,000 円/□

●賛助会員

本会の目的に賛同して入会する個人または法人もしくは団体
で、総会での議決権を有しない。

個人会員	年間	3,000 円/□
団体会員	年間	10,000 円/□
法人会員	年間	20,000 円/□

※会費期限は 3 月末日までとします。但し、1 月以降にご
入会の際は翌年 3 月末までとします。

◆お申込み方法

入会をご希望の方は、事務所へお問合せいただくか、ホーム
ページをご覧ください。

◆会費の口座

ゆうちょ銀行 01170-1-84310
三井住友銀行 西宮支店（普）7833392

◆寄付はこちらをお願いします。

（税制上の優遇措置が受けられます。）

ゆうちょ銀行 14350-21727561
三井住友銀行 西宮支店（普）7833406

（口座名義はいずれも）

特定非営利活動法人日本災害救援ボランティアネットワーク

役員

理事長

渥美公秀 大阪大学大学院教授

理事

池田直樹 弁護士（あすなる法律事務所）・関西学院大学教授

北村英夫 さくら FM 株式会社顧問

寺本弘伸 常務理事

萩野茂樹 デザイナー・NPO 法人三重補助犬普及協会監事

檜垣龍樹 尼崎市職員

山口 元 （社福）光翔会オリンピック理事長

矢守克也 京都大学防災研究所教授

米山清美 にしのみや遊び場つくろう会代表

監事

岩瀬哲正 公認会計士・税理士（岩瀬会計事務所）

鈴木 勇 大阪成蹊大学教授

顧問

太田 博 株式会社 GEO ソリューションズ会長

奥田和子 甲南女子大学名誉教授

事務所

〒662-0853 兵庫県西宮市津田町3-43

Tel.0798-34-9011 Fax. 0798-34-9022

e-mail nishinomiya@nvnad.or.jp



JR西宮駅より徒歩約5分、阪神西宮駅より徒歩約12分

NVNAD

検索

website <http://nvnad.or.jp/>

facebook <http://www.facebook.com/nvnad>

twitter <http://twitter.com/nvnad>



寄り添うこと 想いをつなぐこと

日本災害救援ボランティアネットワークは
想いをつなぎ

寄り添いながら

安心して暮らせる

災害に強いまちづくりをめざします

共想 共奏 共創 共添 のまちづくりをめざして



NVNAD

Nippon Volunteer Network Active in Disaster

認定特定非営利活動法人

日本災害救援ボランティアネットワーク

1999年4月1日 兵庫県認証「特定非営利活動法人（NPO 法人）」（兵庫県第1号）
2014年6月19日 兵庫県認定「認定特定非営利活動法人（認定NPO 法人）」

NVNAD

日本災害救援ボランティアネットワークとは

認定NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD) は、1995年1月17日に発生した、阪神・淡路大震災の被災者を救援するために全国から駆けつけたボランティア、被災地域のボランティア団体によって設立された「西宮ボランティアネットワーク」(NVN) がその前身です。

NVN は、行政とも連携して被災者救援活動を行いました。その活動が効果的であったとして、「西宮方式」として全国的に知られました。

1996年1月、NVNの活動理念を引き継ぎながら、名称を日本災害救援ボランティアネットワーク (NVNAD) と改め、国内はもとより海外にも阪神・淡路大震災とそれ以降の災害救援で学んだ教訓を発信する活動を続けています。災害時には産官学民の枠を超えた連携を呼びかけ、被災者救援、被災地の復興支援を行います。

また平常時には、災害時に備えて日ごろからの顔の見えるネットワークづくり、次世代を担う子どもたちのための「防災といわない防災」ワークショップの実施など防災まちづくり活動、災害時の円滑な救援活動を行うための人材育成講座や研修プログラムの企画・運営をしています。

1999年4月、兵庫県第1号の「特定非営利活動法人 (NPO 法人)」認証を受けました。
2014年6月、「認定特定非営利活動法人 (認定 NPO 法人)」認定を受けました。



1995年1月20日ごろ。西宮市役所で支援物資を地下に搬入する市民ボランティア。この活動を原点として、その想いを継承し現在の活動の礎としています。

災害発生時には

災害救援活動

産官学民の連携のもと、現地救援活動・後方支援活動を行います。迅速な救援活動を展開するため、災害発生時にはスタッフが現地に向かい、救援・支援に特化した視点で状況を分析します。多くのボランティアが必要な場合には、様々な交通手段等を検討し、支援体制を構築します。また、見落とされがちな地域や、少数の方の困りごとについて「寄り添う」視点で息の長い支援を考えます。

これまでの主な活動事例

【国内】

- ・阪神・淡路大震災救援 (1995)
- ・日本海重油流出事故災害救援 (1997)
- ・有珠山噴火災害救援 (2000)
- ・新潟県中越沖地震救援 (2004)
- ・新潟県中越沖地震救援 (2007)
- ・岩手・宮城内陸地震救援 (2008)
- ・佐用町豪雨災害救援 (2009)
- ・東日本大震災救援 (2011)
- ・台風12号救援 (和歌山県那智勝浦町・2011)
- ・宇治市水害救援 (京都府宇治市 2012)
- ・山口県豪雨災害救援 (2013)
- ・丹波・福知山豪雨災害救援 (2014)
- ・関東・東北豪雨水害救援 (2015)
- ・熊本地震救援 (熊本県熊本市、益城町・2016)
- ・九州北部豪雨災害救援 (福岡県朝倉市、大分県日田市・2017)
- ・大阪府北部地震救援 (大阪府吹田市・2018)
- ・西日本豪雨災害救援 (岡山県倉敷市、矢掛町・2018)
- ・令和元年東日本台風救援 (岩手県、福島県、長野県、静岡県・2019)
- ・令和2年7月豪雨災害救援 (熊本県入吉市、球磨村・2020)
- ・能登半島地震/能登豪雨災害 (石川県・2024)



丹波市で活動 (丹波・福知山豪雨)



能登豪雨災害での活動 (輪島市)

【海外】

- ・インドネシア津波災害救援 (1996)
- ・トルコ/台湾地震救援 (1999)
- ・ハリケーン・カトリナ救援 (2005)
- ・中国・四川大地震救援 (2008)
- ・ニュージーランド地震救援 (2011)
- ・フィリピン台風救援 (2013)
- ・トルコ・シリア地震 (2023)



台湾地震の被災地で現地調査

平常時の活動 (3本柱)

顔の見える関係づくり

1. ネットワーク活動

災害時に速やかな活動を行うには、日ごろから顔の見える関係づくりが不可欠です。国内外の機関と連携するネットワークづくりにつとめています。

主なネットワーク

- ・全国災害救援ネットワーク (J ネット)
- ・ひょうご市民活動協議会
- ・チャリティカレンダー市

防災といわない防災

2. 防災まちづくり活動

「防災」という用語を使わず、子どもから大人まで楽しみながら活動することを通し、住んでいる地域に愛着が生まれ、無意識のうちに防災への関心や意識を高めていただく取り組みを行っています。これを「防災といわない防災」と呼んでいます。

これまでの主な活動事例

- ・わがまち再発見ワークショップ (まち歩き等で地域の危険や安全性を再確認)
 - ・子ども防災クラブ (小学校3年生から6年生を対象にした防災活動)
 - ・防災パーク (南海トラフ巨大地震や高潮災害を想定した防災イベント)
 - ・小学生のぼうさい探検隊マップコンクール
- 主催/日本損害保険協会、朝日新聞社、日本災害救援ボランティアネットワーク



わがまち再発見ワークショップ



子ども防災クラブ

実践力を身につける

3. 講演・講座・研修・セミナー

災害発生時の具体的場面を想定し、実践力を身につけるための講座、研修等を実施しています。対象は、一般市民、災害ボランティア、自主防災組織のリーダーなど。行政職員向けのものも用意しています。また、講演会などへの講師も派遣します。

講座等の実績

- ・災害ボランティアの養成講座 (単発講座、連続講座)
- ・分野別の防災講座 (子どもや親子対象、食と防災講座等)
- ・防災訓練の活性化へ向けた企画・提案 (行政、団体、企業向け)
- ・防災ゲームクロスロードの講義・運営
- ・視覚障害者など要支援当事者や支援者対象の防災講座・訓練
- ・まちごと防災セミナー (地区防災計画のサポート)
- ・製作したアニメを使った防災講座 (乳幼児親子や子育て支援者など対象)



幼児が見ても分かる防災アニメの製作



視覚障害当事者の避難訓練